

ふだん使わない“テストで書ける漢字”

石井方式を始めて、20年近くになりますが、「最初から漢字表記で学習した子供は、決してそれをかな書きすることがない」という事実を確認しています。

この事実から見ると、「現在の子供たちが、テストすれば書ける漢字を使わないでかな書きするのは、漢字がむずかしいからかな書きするのだろう」という今までの見方は、誤っていることがよくわかります。

これは、明らかに、「漢字書きの習慣がないために漢字を使わない」ということです。初めから、かな書きさせられて、「かな書きの習慣がついたために、その習慣から抜け出すことができない」ということです。

こんな簡単な事実が、今まで、だれからも指摘されずにきたのです。

ところで、“漢字で書こうとする習慣”をもった子供は、今それを書く力がない場合でも、教えてもらって必ず漢字で書こうとし、絶対にか

な書きしません。だから、今それを書く力がなくても、必ず“書く力”を身につけます。

それに反して、“かなで書く習慣”をつけられている今の子供たちの多くは、今漢字を書く学習をさせられ、漢字を書く力がついたとしても、作文やノートにそれを使いませんから、せっかく書く力がついたとしても、やがて“書く力”を失ってしまうでしょう。

ここに、大変な教育上の問題があります。今は書けなくても必ず書けるようになるのと、今書けてもやがて書けなくなるのとでは、大変な違いです。今の文字教育は後者であり、石井方式は前者です。